

沢はナメ状で、こげがついている。岩は青かった。F₂7mを直登すると、しばらくは河原歩きとなった。

1時間半ほど歩いた所で二俣となり、右に入る。すぐのF₃3mを越えると、もう水も少なくなり、沢も狭くなってきた。騒々しいアブもいなくなったが、オニヤンマがやけに多い。小滝とナメを越えて少し歩いてから、滝の沢への下降が楽のように、右の支沢に入る。ヤブこぎ5分で尾根に出た。

(記・)

[タイム] 小瀧生川出合(8:10)→二俣(9:30)→遡行終了(10:45)→尾根(10:50)

叶津川支流小滝沢 1995年7月30日

尾根から下り始めると、すぐ湿原に出る。ミスバショウが生えていた。小沢が2本合流すると、滝が連続するようになった。

F₂約10m 3段滝がこの沢最大の滝で、クライミングダウンする。このあとも小滝を次々に下り二俣へ。左俣の方が水量は多かった。

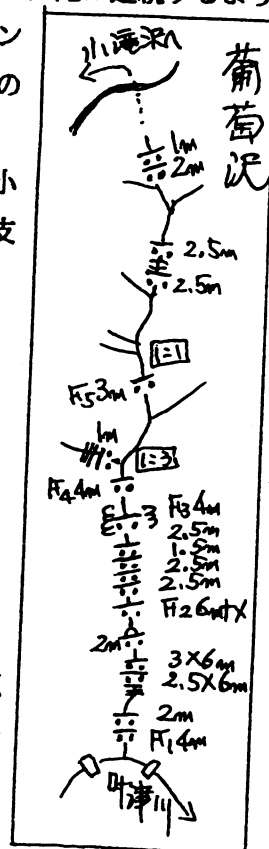
二俣から先も次々に小滝がかかる。この沢は名前の通り小滝の連続する沢である。次の小滝群を降りナメを過ぎると支沢が2本合流し、河原状となって、叶津川まで続いていた。叶津川対岸の林道に上がり、今日の行動を終えた。

(記・)

[タイム] 尾根(9:25)→叶津川出合(11:10)

叶津川支流葡萄沢 1995年7月30日

車で送ってもらい、叶津川にかかる橋より少し下った地点から、対岸の葡萄沢に入る。沢幅は狭いが、水量は比較的多い。遡行を始めるとすぐにF₁4mと小滝があり、先が楽しみ



である。ナメを越えると滝が連続するようになる。F₂6mナメ滝が最も大きく、あとは小滝ばかりだが、いずれも楽に登れ、楽しい。

小滝群を越えると二俣となり、小休止後水量の多い右俣に入る。あとは小滝があるだけ。右に左にと分岐する沢をつめてゆくと、尾根が近づいてくる。最後の二俣を右に入り、小滝2つを越えるとすぐに水がなくなり、尾根へと突き上げた。

[タイム] 出合(7:15)→遡行終了(9:25)

岩手山・秋田駒連峰の沢

葛根田川 1995年9月23日

♪

前夜は葛根田地熱発電所のパイプと思われるものを横目で見ながら進み、堰堤のそばの道路脇にテントを張って眠った。夜が明けるとすぐ、今夜のおかずにするイワナを釣るために、渡辺と高野が一足先に出発する。我々も朝食を早目に済ませて出発した。堰堤を越えて、広々とした河原を進む。事前の資料から想像してきた通りの明るい沢である。イワナは釣れたかな、魚影がないな等と話している間に、明通沢出合に着いた。明通沢出合からしばらく進むと、通称「お函」と呼ばれているという、両側が岩盤状の開けたゴルジュ帯を通過するが、緊張感もない。先行の学生らしいパーティを追い越して振り返ると、彼らはそこでおもむろに釣糸を垂らしていた。

大石沢出合を過ぎ、連続するナメ床とその先の階段状のナメ滝を越すと、また平凡な沢となってしまう。中ノ又沢を分けた先に、通称「葛根田の大滝」が現われる。2段約20mの高さで、右岸を捲く。滝ノ又沢出合で先行した渡辺と高野に追いつく。釣り上げたイワナの大きさは、いまいちのようである。

沢の途中で幕営の予定であったが、天気が下り坂となったこともあり、八瀬森